

巻 頭 言

この『東アジア文化交渉研究』別冊3は、2008年6月28日に開催された関西大学文化交渉学教育研究拠点（ICIS）の第2回研究集会「内藤湖南への新しいアプローチ—文化交渉学の視点から—」の報告書である。

今回、内藤湖南をテーマとしてとりあげたのには、いくつかの理由がある。関西大学には、湖南の旧宅である恭仁山荘に遺されていた湖南の蔵書などからなる内藤文庫があり、今般、未公開書簡を主とする関連資料のデジタル化作業が開始されているが、それに際して湖南の学問的・精神的遺産を再検討する必要性が生じたことが、直接の契機である。また、東アジア文化を研究対象とする我々のグローバルCOEプログラムにおいて、歴史学を中心とする湖南の中国観、さらには文明観から、東アジアを捉える新たな視点を獲得する端緒を得たいと願ったことも、理由の一つである。さらに、19世紀後半から20世紀前半の激動する東アジアを同時代史として体験した知性の遺産のなかに、東アジアにおける文化交渉研究の水脈が眠っているのではないかと期待したこともある。

研究集会は、基調講演3本、特別講演1本、それぞれ2本の研究報告からなるパネル2セッションとコメントからなり、大変濃密な内容となった。とりわけ、谷川道雄氏をはじめとして河合文化教育研究所で精力的に進められている湖南研究の成果の一部を今回披瀝していただいたこと、またグローバルCOE客員教授としてお迎えしたジョシュア・フォーゲル氏、高田時雄氏に基調講演をお願いできたことも、幸いであった。

研究集会当日は、100名を超える参加者があり、また陶徳民拠点リーダーの発案・企画によって1カ月にわたって関西大学図書館で開催した特別企画展「内藤湖南—近代日本の知の巨匠—」が、本学図書館の企画展としては過去最高の入場者数を記録したことは、湖南に対する関心の高さを如実に物語っている。

もとより、一日の研究集会で湖南の学問の深さ・広さが十全に解明されるものではないが、本報告書が湖南研究の進展の一助となれば幸いである。

2008年12月

関西大学文化交渉学教育研究拠点

拠点サブリーダー 藤 田 高 夫

グローバルCOEプログラム
関西大学文化交渉学教育研究拠点（ICIS）
第2回研究集会

テーマ：内藤湖南への新しいアプローチ —文化交渉学の視点から—

日時：2008年6月28日（土）10：00～17：40

会場：関西大学以文館4階 セミナースペース

主催：グローバルCOEプログラム関西大学文化交渉学教育研究拠点

プログラム

開会の辞 河田悌一（関西大学長）
藤田高夫（関西大学教授・ICIS拠点サブリーダー）
内藤文庫資料のデジタル化作業と一般公開について

基調講演

内藤湖南の西洋文明観－東方文化聯盟発会式講演を中心に
陶徳民（関西大学教授・ICIS拠点リーダー）
内藤湖南の敦煌學 高田時雄（京都大学教授）
『内藤湖南全集』に未収録の資料について
ジョシュア フォーゲル
（ヨーク大学教授、ICIS・COE客員教授）

特別講演

内藤湖南の思想次元 谷川道雄（京都大学名誉教授）

セッション1 湖南における学問形成とその歴史背景

漢学から東洋史へー日本近代史学における内藤湖南の位置ー
葭森健介（徳島大学教授）
湖南史学の特徴と形成 高木智見（山口大学教授）
コメント 狭間直樹（京都産業大学教授、京都大学名誉教授）

セッション2 湖南における中国史像と東洋史像の特質

此生成就名山業 不厭重洋十往还—内藤湖南中国访书及其学术史意义—

钱婉约（北京語言大学教授）

内藤湖南の中等東洋史教科書における東洋史像—文化交渉学の視点から—

高木尚子（山口大学非常勤講師）

コメント

大里浩秋（神奈川大学教授）

総合討論

エクスカージョン 2008年6月29日（日）

恭仁山荘（内藤湖南旧宅）訪問、ディスカッション